

国東市隣保館所蔵 人権に関する絵本一覧

R3.3.18現在

	書籍名	著者	発行	発行年月	内容
1	人権の絵本 じぶんを大切に	岩川直樹(著)木原千春(絵)	大月書店	2000/1	わたしって何? 人権って何? を考える。いじめで苦しんだり、じぶんを見失って悩む子どもたちが、じぶんを見つめ、お互いを信頼しあえるためにまとめた、討論しながら学べるシリーズ。1巻では「じぶん」を考える。
2	うふふ	二宮由紀子・文 おきぬちゃん・絵	解放出版社	2016/4	愛らしくって思わず「うふふ」って笑うと幸せオーラがあふれだす。失敗も困ったことも、ちょっと見方を変えたら「うふふ」って笑えてね、前に進んでいけるかも。ユーモラスな絵に言葉をつむいで「うふふ」な世界を広げる絵本。
3	ひらがなにっき	若一の絵本製作実行委員会・文 長野ヒデ子・絵	解放出版社	2008/9	この絵本の主人公である吉田一子さんは、大阪府にある「富田林識字学級」で文字を学ばれました。絵本の本文は、吉田さんの識字作品を基にして創作したものです。
4	食べているのは生きものだ	森枝 卓士 文・写真	福音館書店	2014/11	社会の分業化が進み、効率のよい暮らしになった現代。でもその分だけ身近でない仕事は見えにくくなりました。そして、食べることについても、加工食品が氾濫し、自分が何を食べているのかが分かりにくくなり、「生きものの命をいただいている」という実感が薄くなりました。そんな今だから、私たちの生きる力は、私たちの血となり肉となった、たくさんの命に支えられているということ、あらためて振り返ってみたいと思います。
5	ええやんそのまま	トッド・パール・作 つだゆうこ訳	解放出版社	2008/12	「ええやんそのまま」「あんたはあんた」と、いろんな場面でリズムカカルに語りかける。「歯が抜けても平気」だし「長い鼻も丸い鼻も大切な鼻」で「体の色もいろいろ」「髪の毛がなくてもお洒落する」多様な“わたし”を楽しみながら受け入れられるようになり、多様な他者も認められるようになる。シンプルなタッチ、カラフルな色遣いで人気があるトッド・パールの絵本を翻訳。3才～大人
6	うそ	中川ひろたか・作 ミロコマチコ・絵	金の星社	2014/6	ひとは なんて うそをつくだろう? 中川ひろたか & ミロコマチコ 初コラボ!! うそをつくのはいけないことだけど うそをついていない ひとなんているのかなあ?
7	おたまさんのおかいさん	日之出の絵本製作実行委員会・文 長谷川義史・絵	解放出版社	2002/12	第34回講談社出版文化賞絵本賞受賞作品。 肝っ玉ばあさんのおたまさん。おたまさんは、孫と3人で暮らしている。貧乏で何にも無いけれど人情に厚いおたまさんは、炊いたおかゆをみんなに分けてくれる。おたまさんの炊いたおかいさんを食べると、おなかも心もぽっかぽか。みんなが頼ってやってくる。長谷川義史の豪快な絵が見物。おたまさんは実在の人物。巻末に資料がついて、当時のことや背景が分かりやすい。
8	ふしぎなともだち	たじま ゆきひと	くもん出版	2014/6	ことばでわかりあえなくても、心はわかりあえる。島の小学校に転校してきたぼくのクラスには、自閉症のやっくんがいた。障がいの有無をこえて「共に育ち、共に生きる」ことをえがく絵本。
9	へたなんよ	ひこ・田中・文 はまのゆか・絵	光村教育図書	2017/3	おばあちゃんはみみがとなくて、でんわできくのがへたなんよ。せやからわたしがきいて、おしえるの。「ネネはしょうずにきくねえ」おばあちゃん、あのな、わたしにもへたなことあるよ。

10	でんでんむしのかなしみ	新美南吉・作 かみやしん・絵	大日本図書	1999/7	皇后さまの心に「何度となく、思いがけない時に記憶によみがえって」きた『でんでんむしのかなしみ』を初め、心にしみる南吉童話の世界。
11	きみの家にも牛がいる	小森香折・作 中川洋典・絵	解放出版社	2005/10	牛は、人が食べるために屠畜される。でも、食べるだけじゃない。意外なものまで牛を材料に作られ、私たちの生活を支えている。どのように屠畜・解体され、どんなものに加工されるかを表した絵本。小学校中学年から。
12	いちにちじごく	ふくべあきひろ・作 かわしまなえ・絵	PHP	2017/7	4～5歳から
13	夢は牛のお医者さん	時田美昭・作 江頭路子・絵	小学館	2016/6	新潟県のひとりの少女の26年に密着したドキュメンタリー映画『夢は牛のお医者さん』。獣医師への夢をおいかけるひたむきな姿が大きな反響を呼び、「日本映画ペンクラブ賞」ほか数多くの映画賞を獲得しました。その映画の感動が、一冊の絵本になりました。
14	手話ではなそう しゅわしゅわ村のゆかいなのりもの	くせ さなえ・作・絵	偕成社	2018/9	絵本を楽しみながら、自然と手話がおぼえられる「手話ではなそう」シリーズの4作目。「じてんしゃにのって どこへいくの?」「くるまにのって どこへいくの?」行くところは、お店だったり温泉だったりいろいろです。さいごはロケットにのって! いったいどこへいくのかな? 手話のイラストを見て同じくさをしていると、誰でもちょっとだけ手話ができるようになります。不思議な魅力のあるユニークなイラストです。手話、指文字の説明付き。手話を言語と位置づけ普及を図る「手話言語条例」の成立は、全国の自治体でどんどん増えていっています。手話を知って、手話に親しむきっかけとなる絵本。
15	あなに	長谷川 集平	解放出版社	2015/10	原発災害に向き合った視点での絵本
16	てるちゃんのかお	藤井輝明・文 亀沢裕也・絵	金の星社	2011/7	「てるちゃんはてるちゃん。てるちゃんのいいところを、いっぱいおぼしていくの」海綿状血管腫という病気で、顔に大きなぶぶのあるてるちゃん。いじめや差別をうけてきたてるちゃんに、ずっとそういつづけてきたお母さんは…。「あなたは顔で差別をしますか」藤井輝明さん初めての絵本。
17	半日村	斎藤隆介・作 滝平二郎・絵	岩崎書店	1980/9	一日のうち半日しか日があたらぬ半日村。その貧しい村に日をあてようとして、村のうしろにある高い山をけずる少年の一平……。
18	カワウソ村の火の玉ばなし	山下明生・文 長谷川義史・絵	解放出版社	2011/6	昔、カワウソ村とよばれておったこころは、雨の晩には、すすけた提灯のような火の玉が飛びよったと。カワウソ村のもんは、お宮に入れん決まりやったから、どんなに相撲がすきでも秋祭りの宮相撲は見られんやった。ある年、カワウソ村の才三は、どうしても宮相撲が見たくて顔をかくして入り込んだのだが…。福岡県筑後地区の古老の語り子どもたちも読みやすい絵本に翻案。語り口を生かした巧みなテキストと、力強く滋味あふれる絵は、絵本の醍醐味を味わえる一冊となるでしょう。
19	いのちの花	そのだ ひさこ・文 丸木俊・絵	解放出版社	2003/6	酔って暴れた武士を袋だたきにして逃げた五人。五人を差しさねば「むら」を焼き払うと役人は告げた。無実の罪に「むら」は…。今もこの「むら」で、いのちはにぎわっている。江戸末期の史実をもとに作られ、自費出版されていた作品の再版。『原爆の図』丸木俊「幻」の絵本。「むら」の苛酷な歴史を、確かな筆力で描いた名作。
20	世界あっちこっちくらし探検 世界の人々の文化を学ぼう	スーシー・レイ 文 グレッグ・パブロツキ絵 おおつかのりこ訳	汐文社	2018/12	世界には約200の国があり、75億人がくらしています。どこに住んでいるかによって、数多くのちがった文化やくらしがあるのです。みんなが少しずつちがうから地球はとつともすばらしい。さあ、ページをめくって、世界中を探検してみましよう!

21	ばあちゃんのリヤカー	堀内 忠編 高津和圭乃 絵	福岡県人権研究所	2015/8	人権教育に取り組んでいる教師たちから「中山のばあちゃん」と慕われていた中山コイトさんが部落差別と闘いながら、子育てをしてきた生きざまの記録
22	じぶんをいきるためのるーる。	ippo.	解放出版社	2015/2	世間が求める自分を演じ続けた日々。 過去、生きづらくて苦しんだ自分に。今、悩んでいる子どもたちに。仲間に。 自分らしく生きるための、大切な6つのルールを伝えたい。 小学校低学年～大人まで